

<報 告>

広島大学ダイバーシティ&インクルージョン推進機構特別支援教育実践センター 令和7年事業報告

I. はじめに

本センターは、特別支援教育分野に関する基礎的・実践的研究を推進するとともに、教育相談や研修活動等を通じて地域社会に貢献することを目的としている。ここでは、本センターが実施している教育相談・臨床活動、研究活動、研修活動および地域貢献活動について報告する。

II. 令和7年事業報告

1. 教育相談・臨床活動

令和7年1月1日から12月31日までに、特別支援教育実践センター職員、および教育相談員として特別支援教育学領域教員が実施した教育相談・臨床活動の障害種別の実績を Table 1に、年齢別の実績を Table 2に示した。新型コロナウイルス感染拡大防止のために令和2年度から開始したオンラインによる教育相談についても、継続して実施した。対面による相談者の居住地域は広島県内を中心としている（東広島市、呉市、広島市）が、県外からも来所者がある。広島市や呉市

Table 1 教育相談・臨床活動の件数（障害種別）

	対面	対面以外（OL等）
視覚障害	18	0
聴覚障害	10	0
知的障害	35	0
肢体不自由	13	0
言語障害	1	7
発達障害	128	0
その他	0	0
合計	205	7

Table 2 教育相談・臨床活動の件数（年齢別）

	対面	対面以外（OL等）
0～6歳（乳幼児期）	17	0
6～12歳（学童期）	122	0
12～15歳（青年前期）	26	0
15～18歳（青年中期）	22	0
18歳以降（青年期）	18	7
合計	205	7

の眼科、内科にて、出張教育相談も複数回行った。また、広島県内の小・中・高等学校の教員に対するスーパーバイズ、広島県内の特別支援学校特別支援学校技能検定の実施協力、その機会を利用した本学学生向けのキャリア教育・職業教育に関する学習機会の提供なども複数回実施した。

2. 研究活動

(1) 広島大学特別支援教育実践センター研究紀要第23号を発行した。受理された原稿は、原著論文4編、実践研究3編、資料5編であった。

(2) 教師教育デザイン学プログラムの教員の協力を得て、広島大学が実施する履修証明プログラム「特別支援教育担当教員育成プログラム（基礎コース）」を3科目開設し、6名の受講登録があった。（令和3年度より実施）

(3) ダイバーシティ&インクルージョン推進機構研究員及び学内教員の協力を得て、広島大学が実施する履修証明プログラム「ダイバーシティ・インクルージョン研修プログラム」を4科目開設し、6名の受講登録があった。（令和6年度より実施）

(4) 文部科学省「令和6年度特別支援教育に関する実践研究充実事業（その他施策上の改善のための調査研究）」に採択され、広島県教育委員会、国立特別支援教育総合研究所西日本ブランチ広島オフィスと連携しながら、「コアカリ対応特別支援学校教諭免許状認定講習プログラム」の開発に向けてニーズ調査や免許法講習等を実施した。（令和5年度より実施）

(5) 文部科学省「音声教材の効率的な製作用法等に関する調査研究」事業を受託し、広島大学図書館と協力して、センターの利用者をはじめ、全国213名の児童生徒にUD-Book教科書を累計761点（201タイトル）出荷し、利用状況を調査した。また全国学校教員及び指導主事などの指導者52名に対しUD-Book教科書を提供し、読みに困難のあるまたは日本語指導の必要な児童生徒の指導に貢献した。（令和元年度より受託）

(6) 児童・少年の健全育成実践の研究助成（2年助成）（公益財団法人 日本生命財団）を受け、「読み困難児の読書機会を豊かにする図書館活動の検証と普及

に関する研究」に取り組み、本センターを利用している児童生徒を含む10名を招待した、「安心して参加できる読書会」（あんどくかい）を開催した。

(7) 東広島市協定事業「合理的配慮としてのICT活用に関する研究及び読書と評価に関する研究」において、東広島市内の小中学生80名を対象に読みデータを収集した。

3. 研修活動・地域貢献活動

学生対象の行事

(1) HUSA 学生が主に受講する特別支援教育基礎論の一環として、11月15日、11月18日、12月9日に広島市内及び東広島市内の特別支援学校を訪問し、授業見学や国際交流を行った。

(2) 本センターと特別支援教育学領域が共同し、4月12日に広島大学にて新入生オリエンテーション領域行事を実施した。参加者は、外部講師として4名の現職教員、学部1年次生28名、大学院博士課程前期学生8名、特別専攻科学生5名、教員10名の計55名であった。

(3) 本センターと特別支援教育学領域が共同し、6月23日に「就職指導講話（マナー講座）」を開催した。参加者は、外部講師1名、学生27名（3年次生25名、4年次生2名）、特別専攻科学生5名、特別支援教育学領域教員4名の合計37名であった。

(4) 中国・北京師範大学、中国・長春大学、韓国外国語大学、タイ・カセサート大学、インドネシア教育大学と e-START プログラム（前期）Cultivating a Caring and Inclusive Society for All を実施し、本学48名を含む、のべ79名の学生が、学校教育におけるダイバーシティ、インクルーシブ教育や社会におけるインクルージョンの在り方について学んだ。中国北京師範大学を除く上記大学と e-START プログラム（後期）Fostering Diversity, Equity, and Inclusion in School を実施し、本学37名を含む、のべ67名の学生が受講した。

講習・講演・研修

(1) 令和7年度免許法認定講習会（教育委員会主催）を広島県及び県外（岡山、愛媛、徳島）で実施した。

(2) 広島県内特別支援学校における公開授業研究会で指導助言や講演を行った。

(3) 認定こども園、小学校、中学校、高等学校において、指導助言や講演を行った。

(4) 福岡県教育センター主催の令和7年度専門研修（キャリアアップ講座・短期研修講座）において研修

を担当した。

(5) 香川県立視覚支援学校主催のかがわロービジョン研修会において、「弱視児童生徒への年齢や場面に応じた支援について」という演題で研修を担当した。

(6) 京都スーパーサポートセンター専門員として、研修会「教育的視機能評価とその十分な活用のあり方について」において、のべ2回講師を務めた。

(7) 京都府立盲学校主催の令和7年度第2回視覚障害教育研究会において「発達障害を併せ有する児童生徒の理解と支援」という演題で研修を担当した。

(8) 山口県教育庁弱視特別支援学級担当者等講習会において研修を担当した。

(9) 青森県立盲学校主催の令和6年度特別支援学校におけるICTを活用した自立と社会参加を目指す学びの推進事業において、研修を担当した。

(10) 鳥取県教育委員会主催の令和7年度学校における健康課題対策研修会において「視覚障がいへの理解と支援～みんなで進める合理的配慮～」という演題で研修を担当した。

(11) 令和6年度四国教育オーディオロジー研究協議会において、講演を行った。

(12) 島根県肢体不自由教育研究会において、講演を行った。

(13) 広島市こども未来局主催のICT機器活用講座において、保護者及び専門職（医療職・教育職・放課後等デイサービス職員）を対象とした講義・演習を担当した。

(14) 大阪医科薬科大学LDセンター主催のオンライン講演会において、「学校でのICT活用が発達障害のある児童生徒の多様な学びを支える～タブレットの活用で広がる可能性～」という演題で研修を担当した。

(15) 特定非営利活動法人全国LD親の会主催の2025年度特別支援教育支援員養成ビデオ講座において「子どもの特性と対応法 7 視覚障害」という演題で研修を担当した。

(16) 広島市立己斐東小学校主催の令和7年度教員の資質・能力向上推進事業において「特別な教育ニーズのある子供への学習支援としてのICT活用について」という演題で研修を担当した。

(17) ディスレクシア月間の大阪医科薬科大学担当特別講演において「ディスレクシアと合理的配慮」という演題で研修を担当し、LDセンターの職員と共にディスカッションを行った。

(18) 岡山県LD等発達障害親の会主催のはあとりんく連続講座において「読み書き計算に困難のある児童

生徒の学び方を考える」という演題で研修を担当した。
シンポジウム、ワークショップ等の開催

(1) オンラインUD-Book 説明会を14回開催し、UD-Book の活用について普及を図った。

(2) Kids Loco Project International Meeting 2025 を広島大学で開催した。

他機関との共催事業

(1) ダイバーシティ&インクルージョン推進機構・国立特別支援教育総合研究所が主催し、Susan Main 氏 (エディスコワン大学上級講師) を招聘、川合紀宗氏 (広島大学教授)、村上理絵氏 (広島大学准教授) を登壇者に加え、4月19日に第5回ジョイントセミナー「学習障害・学習困難のある子どもたちの教育」を開催した。

(2) ダイバーシティ&インクルージョン推進機構 ウェルビーイング推進室・国立特別支援教育総合研究所が主催した7月26日の第6回ジョイントセミナー「共に創るウェルビーイング社会：テクノロジー×インクルージョン」において協力を行った。

(3) ダイバーシティ&インクルージョン推進機構・国立特別支援教育総合研究所が主催し、Angela Mogan 氏 (メルボルン大学教授)、Wendy Quach 氏 (サンノゼ州立大学教授)、Yrjo Engestrom 氏 (ヘルシンキ大学教授) を招聘、滑川典宏氏 (国立特別支援教育総合研究所総括研究員)、川合紀宗氏 (広島大学教授) を加えて、9月20日に第7回ジョイントセミナー「ことばの発達と多様性を支えるインクルーシブな教育へー文化・社会・認知・発達にまたがる視点からー」を開催した。

(4) ダイバーシティ&インクルージョン推進機構・国立特別支援教育総合研究所が主催し、Umesh Sharma 氏 (ノッティンガム大学寧波校副学長)、Tamar Heller 氏 (イリノイ大学シカゴ校特別教授)、Romina Boarini 氏 (経済協力開発機構ウェルビーイング・包摂・持続可能性・機会均等センター長) を招聘し、清重隆信氏 (国立特別支援教育総合研究所理事)、川合紀宗氏 (広島大学教授) を加えて、10月12日に第8回ジョイントセミナー「インクルージョンとウェルビーイングのためのシステム変革ー政策から実践へ、学際的対話を通じてー」を開催した。

(5) ダイバーシティ&インクルージョン推進機構・国立特別支援教育総合研究所が主催、インドネシア初等中等教育省・カンボジア国立特殊教育研究所と共催し、K. Vish Viswanath 氏 (ハーバード大学教授)、中村かれん氏 (カルフォルニア大学バークレー校教

授)、野口晃菜氏 (一般社団法人 UNIVA 理事)、Dianne Chambers 氏 (エディスコワン大学国際部長・教授)、丸山恭司氏 (広島大学教授)、Nunuk Suryani 氏 (インドネシア初等中等教育省)、Hang Kimchhorn 氏 (カンボジア国立特殊教育研究所)、Kim Sukjin 氏 (韓国国立特殊教育院) を招聘し、川合紀宗氏 (広島大学教授) を加えて、12月21日に第9回ジョイントセミナー「インクルーシブな未来を築くー文化をこえてひらく教育・多様性・地域支援のかたちー」を開催した。

(6) 令和7年度広島大学と東広島市教育委員会との連携事業として、「特別なニーズへの支援事業」「合理的配慮としての ICT 活用に関する研究及び読書と評価に関する研究」を実施した。

(7) UD-Book 体験・説明会を、8月2日に島根県立大学特別支援研究推進チームとの共催で、8月30日に一般社団法人カラフルバード (東京) との共催で、11月29日に岩手県発達障がい者支援センター「ウィズ」との共催で、12月26日に広島県発達障害者支援センターの共催で開催した。

(8) 広島大学図書館との共催で、「安心して参加できる読書会」(あんどくかい) を12月14日に開催した。広島県内の幼小中学生及びその保護者が参加し、LLブック、ストーリーボックス、UD-Book 図書を用いた読み聞かせのワークショップを行った。

(9) 第51回中国・四国地区盲学校弁論大会 (広島大会) において審査員を務めた。

学校等への訪問、相談活動等

(1) 広島県内特別支援学校において学校運営協議会委員を担当した。

(2) 広島県及び県外 (岡山、島根、佐賀) の特別支援学校の依頼を受け、のべ6回の授業参観や講演を行った。

(3) 広島県立尾道特別支援学校の依頼を受け、聴覚障害部門幼稚部・小学部の授業を参観し、担当教諭に対して指導・助言を行った。

(4) 広島市教育委員会専門家巡回相談事業の巡回相談員としてのべ5校を訪問し、教員に対する研修や助言を行った。

(5) 広島市の小学校及び中学校、東広島市の小学校の依頼により、通常学級や日本語学級の授業参観を行い、支援の提案を行った。また、広島県立西条特別支援学校の依頼により高等部の授業参観を行い、支援技術を中心とした支援及び指導の方法について提案を行った。

(6) 東広島市の小学校の依頼により言語発達等検査を3名の児童に実施し、結果の説明及び支援の提案を行った。

(7) 3Dプリンタで印刷した教材を、広島県内外の特別支援学校4校及び広島県外の小学校1校に提供した。また、操作できる計算シート「Math Pad」「Math Bar」を開発し、3Dプリンタで印刷して、のべ7名の児童に提供した。

(8) 広島県内の眼科医院及び病院において7回、28名の患者に対して教育相談を実施した。

(9) 徳島県内の高等学校2校の依頼に応じて、弱視生徒の教育的視機能評価を実施し、大学入学学力テストに際しての意見書を作成し提供した。

学生派遣等

(1) 特別支援教育学生サポーター派遣事業を実施した。本事業に参加した学生数は12名で、東広島市内16校の小・中学校に派遣した。派遣については、事前指導（発達障害児等への指導等について）を行った。

(2) 広島県立広島中央特別支援学校高等部生徒の広島大学総合博物館等訪問に協力し、学生ボランティア5名が移動支援等を行った。

(3) 東広島市協定事業「特別なニーズへの支援事業」において、東広島市立小学校に国語46回、算数43回、理科4回、社会17回、道徳5回、外国語5回、その他30回、合計150回、学生を派遣して、発達障害の児童

の個別支援にあたった。

(4) 「視覚障害児のための科学へジャンプイン広島2025」の開催に協力した。学生がボランティアを兼ねて8名参加した。

4. 高校生の技能検定、中学生の職場体験学習等

(1) 広島県教育委員会が主催する「令和7年度広島県特別支援学校技能検定（接客）」について開催に協力した。第一回6月28日：参加者20名、第二回10月4日：参加者30名

(2) 9月3日～5日に附属東雲中学校特別支援学級に在籍する生徒4名の職場体験学習を受け入れた。

5. 国立特別支援教育総合研究所との連携

(1) 研修事業企画会議に参加した。

(2) 令和6年度第三期特別支援教育専門研修（肢体不自由教育、病弱教育、言語障害教育）、令和7年度第二期特別支援教育専門研修（聴覚障害教育、肢体不自由教育、病弱教育）および第三期特別支援教育専門研修（言語障害教育）において講師を担当した。

(3) ツナガリの会を原則毎月1回開催し、双方の研究者が実施する研究内容の紹介や共同研究の実施可能性の検討等を実施した。